

口腔咽頭の臨床 第2版



編：日本口腔・咽頭科学会

A4 頁224 2009年
定価 15,750 円(本体 15,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-00757-3] 医学書院刊

日本口腔・咽頭科学会によって編集された『口腔咽頭の臨床 第2版』がこのたび出版された。初版は1998年に出版されたので、約10年ぶりの改訂となる。

本書の第一の特徴として、まず見開き2頁を基本構成としており、左頁に解説が、右頁に写真や図表が配置されていることが挙げられる。また内科医として、感染症専門医としてこのテキストを見ていくと、本書に掲載されている写真は執筆者の秘蔵のものであろうが、鮮明さから、また病変の現れ方から理解しやすい内容となっており、まさに見て把握するには大変参考になるテキストである。

本書は基礎編と臨床編の2つに大きく分けられており、臨床編は3～11章にわたっている。臨床編の中を詳しく見ていくと、最近社会的な問題にもなっている「いびきと睡眠時無呼吸症候群」と「摂食嚥下障害」を新たな章としたことはこのテキストの利用価値を高めている。内科医としては耳鼻咽喉科領域からの睡眠時無呼吸に対するアプ

ローチを知ることができるし、また高齢者をケアしている医師あるいは看護師にとって「摂食嚥下障害」で書かれている内容は大変有意義である。

さらに最近の癌治療の進歩を踏まえ、本書では「腫瘍」の章も新たに設けられている。血液・腫瘍学の専門医にとって、本書はリンパ腫とその他の腫瘍との鑑別を行っていくうえで大変便利な内容となっている。

口腔と咽頭の分野において日常診療でよく遭遇するのは、当然のことながら感染症と炎症性病変である。また、内科的疾患が口腔咽頭に現れることがしばしばあり、診断に苦慮することがあるので、口内炎の項目が充実されているのは本書の使いやすさをいっそう特徴付けている。

咽頭扁桃の感染症の充実も嬉しい。ことに本書では、内科医があまり見慣れない副咽頭間隙膿瘍、咽後膿瘍、扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍についてまで言及されている。

本書は将来さらに改訂されていくであろうが、その際には本書で挙げられている疾患の頻度がだまかでよいので記載されているとありがたい。また、内科医にとって必要なサルコイドーシス、Lemierre 症候群などの解説も加えていただきたいと思う。

いずれにせよ、本書は内科医、感染症医、腫瘍学医にとって有用な参考書である。また、開業を実践している医師にも使いやすいガイドブックである。